

## 平成 24 年度 第 1 回

### 早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会

#### 会 議 次 第

日時：平成 24 年 10 月 25 日（木）  
15 時 30 分～

場所：早稲田大学 所沢校地  
100 号館 5 階 第一会議室

1. 開会・あいさつ

2. 議 事

(1) 前回評価委員会議事録の承認について

(2) 自然環境調査室からの報告

(3) その他

3. 閉 会

## 平成 24 年度 第 1 回早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会

日時：平成 24 年 10 月 25 日（木）午後 3 時 30 分～午後 5 時

場所：早稲田大学 所沢校地 100 号館 5 階 第一会議室

出席：A 委員長・B 委員・C 委員

### 1. 開会

#### あいさつ

- 早稲田大学教務部自然環境調査室担当部長（D）：早稲田大学 教務部自然環境調査室担当部長の D でございます。本日、先生方にはお忙しいところを参加して頂き、本当にありがとうございます。

「平成 24 年度第 1 回の早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会」を始めるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。これまで、長い間、E 先生に委員長ということでご尽力いただけてまいりました。今回から A 先生が委員長ということでご面倒をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。また、先ほどの現地視察では、湿地の生態系も豊かになってきたことを皆さまに確認していただきました。地域との連携においても、十分に対応していることも確認していただいたと思います。

本日は、議事といたしまして、前回の評価委員会の議事録の承認、自然環境調査室からの報告を中心に行いますが、先生方には、活発なご意見、ご指導を頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 2. 議事

- 評価委員会事務局（F）：D 部長、ありがとうございました。それでは、今後の議事に つきましては、A 委員長にお願いしたいと思っております。
- A 委員長：皆さんこんにちは、E 先生が体調不良ということで、前回で委員長をご辞退され、今年度から私が委員長を行わせて頂きます。どうぞよろしくお願い致します。それでは、早速ですが、前回の議事録で何か問題点がございましたら、ご指摘いただきたいと思っております。
- 評価委員会事務局（F）：議事録については、事前に送付させていただいておりましたが、これまで特にご意見はありませんでした。
- A 委員長：それでは、議事録はこれで承認させていただきます。ありがとうございました。次に、自然環境調査室からのご報告をお願いします。

○ 早稲田大学自然環境調査室 (G) :

—2012 年以降の湿地保全管理計画の概要(案)・説明省略—

● A 委員長 : 以上の説明につきまして、ご意見・ご感想等ありましたらどうぞ。

● B 委員 : この評価委員会では、B 地区の建設にあたり広域な湿地を道路が縦断することによる水の分断を避けるために、現在のアーチ状になったという経緯があります。また、湿地には湧水地があることで、今回、トトロ財団で 18 号地を取得しました所沢校地 B 地区の周辺の樹林地および畑地も、水源涵養地の範囲であると思いますので、現在の畑地に関しても、将来的に樹林地に戻し、湧水地が維持できるよう、トトロ財団の方で取得したいと考えています。

B 地区湿地内で開放水面が提案されている場所は、現在、良好な湿地環境を形成しており、昨年度にオオヨシキリの繁殖も確認されています。また、他の場所では乾燥化も進んでいるので、開放水面をつくるよりも、ヨシ原として維持する方が良いと思います。

● A 委員長 : C 先生は、いかがですか。

● C 委員 : 開放水面については、E 前委員長のご意見かと思いますが、私の意見としては、B 先生が発言されましたように、広域なヨシ群落を残すことが大事であり、開放水面の造成によりヨシ群落が縮小されることについては検討すべきと思います。

B 地区の湿地については、B 地区内だけの箱庭的な生態系空間として考えるのか、それとも狭山丘陵全体での位置づけとして考えるのか、十分に検討する必要があると思います。また、B 地区湿地の過去の環境についても調べる必要があると思います。冬場におけるヨシの刈り取りは、湿地を保全する意味でも継続すれば良いと思います。

● A 委員長 : ありがとうございます。かなり昔の話ですが、B 地区の湿地はかつて歩きにくい深田でした。それが放棄されてヨシ群落に遷移しました。池は、自然に水のたまる場所に形成されるので、開放水面をあえてつくることは疑問に思います。今日、現地でみた吹張池は、自然に水が溜まった池でしょうか。

○ 早稲田大学自然環境調査室 (G) : 吹張池は、南側の V 字谷の上部が処理場で埋め立てられたため、湧水量が減少したと思います。今も残されている池は、昔の地形にともない自然に水のたまる場所につくられています。今まで、E 先生にご意見を頂いて、湿地内へ約 1m の深さの両生類のサイトを掘削しましたが、雨が降ると泥が流れ込んで 1 年以内に埋まることの繰り返しだったので、やはり、自然の地形を利用した整備

を行う必要があると思います。

- A 委員長：B 地区のヨシ刈りは、手刈りでやっているのですか。
- 早稲田大学自然環境調査室（G）：そうです。ただし、枯れた時期に手刈りを行うと大変なので、時期を間違えなければ、刈り払い機で簡単に刈り取れます。
- A 委員長：刈るための良い時期とは、いつごろですか。
- 早稲田大学自然環境調査室（G）：ヨシの刈り取りは、カヤネズミがヨシからミヤマシラスグに繁殖場所を移動する 11 月～12 月が最も適しています。ヨシが完全に枯れてしまうと、刈り払い機を用いても大変なので、人手が必要となります。
- A 委員長：現在、B 地区につくられた水田は無農薬ということもあり、十分に開放水面の役割を果たしていると思います。できれば、冬に水を入れる田圃にすればさらに良くなると思います。
- 早稲田大学自然環境調査室（G）：稲刈りの終了後に水を入れて、冬水田んぼの状態にすれば、生物多様性が保たれると思います。H さん、そうですね。
- 埼玉県生態系保護協会（H）：そうですね。冬に水がある状態は、希少種も少なからず確認されます。
- 早稲田大学自然環境調査室（G）：そのような結果が出ているので、刈り取り時期を間違えないようにすれば、水生植物が繁茂し、そこに水生昆虫も生息し、また調整池や水田は、カモ類、カワセミ、サギ類も利用することから、昔のような維持管理ができれば問題ないと思います。
- B 委員：私も同じ意見で、湿地を掘削して開放水面を増やすよりは、棚田方式の水田を増やす方が現実的かと思います。
- 早稲田大学自然環境調査室（G）：でも、棚田をこれ以上増やすことは、維持管理を考えると大変です。
- B 委員：そうですね。人手が必要ですね。

- 早稲田大学自然環境調査室 (G) : 水田を増やすと、刈り取りも大変になります。
- B 委員 : 棚田の形にして、水を張っただけで稲は作らないのはいかがですか。
- 早稲田大学自然環境調査室 (G) : 直にヨシが繁茂するから、作業には胴長が必要となり、ヨシを刈る必要があります。
- B 委員 : いずれも、人手が必要ということですね。
- 早稲田大学自然環境調査室 (G) : そうですね。水田内の草刈りは、ヨシ刈り以上に大変です。
- B 委員 : 池をつくったとしても、泥が流入しその維持管理が大変ですね。
- 早稲田大学自然環境調査室 (G) : そう思います。
- A 委員長 : C 先生の方から、なにか追加意見等はございますか。
- C 委員 : 今後、早稲田大学としてB地区の位置づけをどのようにするのかについて、短期的、長期的な視点から検討する必要があると思います。例えば、①狭山丘陵における保全地域としての位置づけ、②G 先生が長年取り組まれてきた市民に対する貢献に関しての位置づけ、③大学としての研究教育の場としての位置づけ、について考えておく必要があると思います。
- A 委員長 : ありがとうございます。各委員の先生がご発言されたことを元に今後検討を進めていく方向でよろしいでしょうか。それでは、次にオブザーバーとして参加されている方のご意見をお聞きしたいと思います。まずは、「埼玉県自然環境課」の方、お願いします。
- 埼玉県自然環境課 (J) : 県庁の自然環境課の J と申します。本日は、B 地区の現地を見学させて頂きましたが、こちらの区域は、来年、開園する県の「緑の森博物館」と一体となった狭山丘陵に位置する貴重な湿地ですので、これらの自然環境が保たれるように、県の方としても努力していきます。今後ともよろしくお願い致します。
- A 委員長 : それでは、「所沢市」の方、よろしくお願いします。

- 所沢市みどり自然課 (I) : 所沢市みどり自然課の I と申します。先ほど、県の方から、お話がございましたように、いよいよ来年、県の「緑の森博物館・所沢市域」が開園ということで、B 地区の湿地も何回か現場を拝見させて頂いています。当然、「緑の森博物館」が B 地区の湿地環境とも連続していることを十分に考慮しながら、進めていく必要がありますので、今後もアドバイスを頂ければと思います。
- A 委員長: ありがとうございます。これからも連携しながら行いたいと思います。それでは、次に「狭山丘陵の環境を守る連絡会議」の K さん、よろしくお願ひします。
- 狭山丘陵の自然を守る連絡会議 (K) : 本日は、ありがとうございます。今後は、大学として B 地区をどのように評価してさらなる保全を進めていくべきか、ぜひとも考えてほしいと思います。今日の報告を聞きながら、継続調査の重要性、大切さを改めて実感しました。これらの調査結果が基本となり、B 地区の保全にも活かすことができる意味でも、継続した取り組みが必要だと思ひます。あとは、埼玉県緑の博物館やトトロの森 18 号地など含め、狭山丘陵の周辺緑地と連携して取り組む必要があると思ひます。連絡会議でも話し合っ、B 地区の湿地における狭山丘陵全体の位置づけと、今後、この地区をどうするか情報交換しながら、様々な問題を検討していければと思ひます。
- A 委員長: ありがとうございます。それでは、対応を事務局にお願ひいたします。
- 評価委員会事務局 (F) : A 委員長ありがとうございます。本日、予定していた議事は全て終了しました。最後に、早稲田大学の D 部長から、一言ございますのでよろしくお願ひします。
- 早稲田大学 教務部 自然環境調査室 (D) : 長時間にわたり、ご審議いただきまして、ありがとうございます。これで、委員会は終了となりますが、最後に、長い間この委員会にも関わってきた、自然環境調査室の G さんが 11 月末でご定年となります。G さんとしては、最後の委員会の参加となりますので、最後のご挨拶の方、よろしくお願ひ致します。
- 早稲田大学自然環境調査室 (G) : 長い間、ありがとうございます。当時の教務部長から、強く説得されて早稲田大学に勤めることとなりましたが、良かった点としては、B 地区の自然再生が良い状態が続いていることです。一時は、全面的に湿地を埋め立てる計画がありましたから、それを考えると、思い通りの仕事をさせて頂いたと思ひます。

あと、トトロ財団が公益法人化されて、大学の周辺にも土地の寄付が受けられるようになり、緑の森博物館も開館するというので、今後も、B地区の湿地環境は残ると思います。私としては、こうして関わってきた以上、今後も地域の自然が残されるよういろいろ頑張りたいと思います。また、お会いすることもあると思いますし、当分は所沢に残って、埼玉県や所沢市と関わりながら頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。

- C委員：D部長を含めて大学の方をお願いしたいのですが、組織というのは担当が変わると、様々なことが大きく変わります。よって、このB地区の自然再生を進めることが、今後も継続できるようぜひとも取り計らって頂きたいと思います。

- 評価委員会事務局（F）：本日の委員会では、B地区内の現地をみた後に、ご議論を頂きました。今、G先生からもお話しがありましたが、考えてみますと委員の方々も含め、早稲田大学所沢校舎の開校の頃から様々な関わりがあって今日に至り、特にG先生が中心となって取り組んでこられたことにより、現在のB地区の自然環境があります。G先生には、今後も良きアドバイスを頂けるとありがたいと思います。

本日は、ヨシ原の保全についてや開放水面整備における検討の必要性などへのご意見をいただきました。次回は、大隈会館で年度末に行う予定ですが、本日の内容を踏まえた議論ができるよう、準備させて頂きたいと思います。これで、「平成24年第1回早稲田大学所沢校地B地区自然環境評価委員会」を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

以上